

「未病の治」と「治未の病」

赤門鍼灸柔整専門学校 東洋療法教育専攻科 専任教員
第二次日本経穴委員会 作業部会委員 浦山 久嗣

I. 問題の所在

平成9年の『厚生白書』は、疾病の予防を目的に、「健康」と「疾病」の間の状態を「未病」とし、『黄帝内経素問』や『難経』七十七難を挙げて説明している。「未病」は、近年、コマーシャルなどでも使用され、市民権を得つつある伝統医学用語であるといえる。

しかしながら、「未病」という言葉の本来の意味は多様で、重層的で多岐に渡る解釈がなされてきた歴史があり、その最も表層的で新しい解釈が「予防」であったことは、意外に知られていない。

また、最近、「未病」を治療することを、中国古典の原文に拠って「治未病」というが、旧来は「未病治療」または「未病の治」「未病治」と呼び習わしてきた。中国語ならば「治未病(未病を治す)」で問題ないが、日本語の語感としては「治未という病」のように聞こえかねない。これでは「実際に病気にもなっていないうちから治療をしてしまう病気」という、今で言う「ヘルス・ホリック」の変種のように聞こえ、『莊子』盜跖篇の「丘は所謂病無くして自ら灸するなり」を思い出させる。この違和感は放置しがたいものがある。

II. 目的と方法

本シンポジウムでは、「未病」に関連する文献を歴史的に検討し、その用例を通じて解釈の変遷を明らかにする。同時に日本語における「未病治」と「治未病」の用例についても調査する。このことで、「治未病」の意義と定義を再確認したい。

III. 考察

『中医大辞典』(李経緯ら編、人民衛生出版社、1995年刊第1版)など、主な中医関係の辞書には「未病」という用語は記載されていないばかりか、『漢和大辞典』(諸橋哲次編、大修館書店、昭和59年修訂版第1刷)や『漢語大詞典』(羅竹風主編、漢語大詞典出版社、1990年第1版)などにも、記載がない。したがって「未病」という用語の持つ意味は、中国的でもなければ伝統的ではない、極めて現代日本的なニュアンスを含んで多様に使用されていると見て取れる。このことから、「未病」や「養生」などの伝統医学用語は、日本で醸成され新たに意味付けされることで、最新の国際的な用語として生まれ変わる可能性が付加されるといえるのではないか。

伝統医学を主たる業務とする我々日本の鍼灸師こそが、世界に発信する能力と資格を獲得するに足る存在であらねばならないが、それは医学古典を深く理解することによって実現する。「未病」を検討することはその一助となり得ると考える。

■浦山 久嗣 (うらやま ひさつぐ)

赤門鍼灸柔整専門学校東洋療法教育専攻科・専任教員



略歴

1988(S63)年 赤門鍼灸柔整専門学校鍼灸指圧科卒業

2004(H16)年 第二次日本経穴委員会 作業部会委員(委員長推薦)就任

2007(H19)年 赤門鍼灸柔整専門学校 東洋療法教育専攻科 専任教員就任

主な学会活動

1997(H9)年 経絡治療学会評議員および学術部員就任

2005(H17)年 日本伝統鍼灸学会 評議員就任

主な研究業績

○論文『『難経集註』について』(宮澤正順博士古希記念『東洋—比較文化論集—』所収;青史社;

2004(H16)年)

○共著『WHO Standard Acupuncture Point Location in the Western Pacific Region Office』(World Health Organization Western Pacific Region; Manila Philippines ;May 2008)

○共訳『WHO/WPRO 標準経穴部位—日本語公式版—』(第二次日本経穴委員会 監訳;医道の日本社;2009(H21)年)

○投稿論文「論伝統循証鍼灸医学—以腰眼穴為例—」(世界鍼灸学会連合会ホームページ《学術前沿》〈<http://www.wfas.org.cn/xueshu/qianyan/200908/2159.html>〉);世界鍼灸学会連合会;2009(H21)年)

発表者は主に孔穴部位と主治および脉診の歴史について研究してきた。それはそれらが鍼灸師の職能の根拠であると考えたからである。その具体的な方法を TEBA(Traditional Evidence Based Acupuncture)として提案している。